

今こそ被災地を歩こう

iウォークが復活

8年ぶり「復興の現状知って」

阪神大震災の被災地を歩く「こうべi(あい)ウォーク」が11日、8年ぶりに実施される。資金繰りの悪化などから平成13年を最後に中止されていたが、第1回の開催から10年になるのを機に復活することになった。主催者は「復興の現状を知ってほしい」と参加を呼びかけている。



iウォークのコースを下見する実行委員会メンバーら
＝神戸市長田区(神戸まちづくり研究所提供)

iウォークは、市内のNPO法人などが実行委員会を組織して主催。今年には神戸市長田、須磨両区内を歩く3〜4日のコースで実施される。JR鷹取駅前の大公園園をスタートし、長田

区役所南東の共同住宅「みくら5」がゴール。指定されたルートはなく、震災でボランティアの拠点となった「カトリックたかとり教会」、火災でほぼ全焼した「大正筋商店街」などのポイントを自由に歩いてもらう。

参加者には、現在の長田区周辺の地図と一緒に、平成11年の第1回ウォークで配られたコースの地図を配布。両方を比べながら歩くことで、復興の過程を体感してもらうという。

iウォークは11〜13年に計3回開かれ、延べ約7300人が参加した。震災を伝える地域のイベントとして定着していたが、財政面や警備面の問題で継続が難しくなり、休止していた。今年からは開始から10年になる

ため、「風化をふせよう」と、再開の機運が高まった。実行委員会のメンバーで、NPO法人「神戸まちづくり研究所」の野崎隆一・事務局長(65)は「被災地が復興していく過程を体験してほしい。ツアーを機に地域が活性化してほしい」と話している。

当日は大国公園で午前9時半〜10時半まで受け付けを実施する。参加には1000円以上の募金が必要。問い合わせは実行委員会(☎078・230・8511)。